

研究課題番号	3-2303
研究課題名	最終処分場浸出水等に含まれる POPs 等の排出機構の解明とリスク低減技術の開発
研究実施期間	令和 5 年度～令和 7 年度
研究機関名	大阪府立環境農林水産総合研究所
研究代表者名	矢吹 芳教

1. 評価結果

評価ランク：S

2. 委員の指摘及び提言概要

分析法構築とともに、特定の埋立開始年の産廃処分場浸出水で PFOA 濃度が高い傾向を見出したこと、実浸出水処理工程での活性炭処理特性とともに試験的な電気化学的酸化処理の効果を明らかにしたこと、溶出促進因子として pH の効果を見出したことなどの成果を得ており、実用的なデータを含めて多くの知見を得て良好な進捗となっている。浸出水中 PFAS の濃度実態を把握し、埋立物内の PFAS 含有量や処分場での前駆物質からの PFOA 生成に関する知見は有用な示唆となっており、環境行政への貢献が期待できる。今後に向けて、処分場は終了（予定）年での整理も試みることで、活性炭処理性能の管理指標のさらなる検討、実用規模の浸出水処理施設の設計・管理やシステム構成の検討が期待される。また、処分場からの排出量予測に関し、既報レビューや感度解析などを十分に進めた上で、予測の政策的意義に関する議論を進められたい。